A0604-06	濃度の異なる液体が混合したときの発熱に注意		
本文	濃度の異なるプロセス廃液などの液体が混合すると、発熱して思わぬ事故が生じるので注意すること。		
リスクの種類	爆発・火災	関連目次・章節	
理由（何故）	プロセスから排出する濃度の異なる廃液などの液体が混合すると、希釈熱により液温が上昇し、溶解している有機化合物が蒸発や分解、反応を起こすことにより爆発火災、プロセストラブルに陥る危険性がある。		
方策	① 作業前に液体中の溶解物とその濃度をチェックし、確認する。 ② 当該液体の混合による危険性を評価し、混合する際の温度管理と冷却等必要な対策を講じる。		
事故例	新グレードのケトン過酸化物の生産中に出る廃酸と旧グレードの廃酸を混合したところ、廃酸の濃度が違ったため、混合時の希釈熱で温度が上昇し、溶解していた過酸化物が自己分解を起こし爆発した。 （1998.11 化学工場 福岡県） 出典：失敗知識データベース		
法的参考事項			
備考			

© 2020 SCE・Net